

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年8月26日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871900460		
法人名	有限会社 幸		
事業所名	グループホーム きらり	ユニット名	きらぼし
所在地	〒300-1217 茨城県牛久市さくら台3-34-10		
自己評価作成日	平成28年4月1日	評価結果 市町村受理日	平成28年9月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0871900460-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0871900460-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年5月26日	評価機関 決 済 日	平成28年8月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者個々の自己表現を尊重し、発言、行動、意欲などを出しやすい環境、雰囲気作りに力を入れている。入居者の身体状態の変化に合わせて安心安全な就寝場所を提供すると共に、寝たきりにならないよう必要な支援をしている。〔離床支援、個々の状態に合わせた体操支援など〕 四季折々の花木が楽しめる広い庭があり飼い犬や飼い猫も癒しの提供に努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は牛久市内の閑静な住宅街に隣接し、近くには大きな運動公園もある静かな環境となっている。  
建物の前庭にある日本庭園は、利用者や訪問家族等の気持ちを和らげている。  
管理者は事業所設立時から勤務しており、職員も介護経験が豊富である。  
職員は出勤時に「ただいま」と入り、出かける時には「行って来ます」と自然に声を出し、事業所が一つの家庭のようになっている。  
事業所の庭の犬小屋には開設以来の老犬がいるほか、玄関には2匹の猫がおり、犬も猫も嫌いな人もいるので、リードで移動範囲を制限しているが、利用者や来訪者、職員の癒しとなっている。  
協力医療機関の訪問診療が受診できることや、医療機関や看護職員と24時間連携体制がとれていることで、利用者や家族等の安心につながっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夏祭り等の行事に地域の人へ参加を呼びかけ、そこで入居者にあつた仕事を行っていただき入居者を尊重しつつ地域の人達と交流できるように配慮、実践している。	地域密着型になる前からではあるが、「大切な人の過去現在未来を尊重し～地域の中で安心して暮らし続けられるホームを目指します」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を職員皆で考え作成し、玄関や事務室に掲示している。 月1回のユニット会議時や、日々の生活の中で気が付いた時には、管理者は職員と話し合つて理念の内容を再確認し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の小学生との交流、普段の散歩、買い物の時のお店の店員と会話することで顔なじみになり、日常的に地域の方と交流を行っている。	事業所主催の夏祭りでは近隣にチラシを配布し、家族等を含めて130名程の参加を得ている。 地域のボランティアが、浴衣で盆踊りを踊ったり、事業所からは参加者に焼き鳥やフランクフルト、焼おにぎりを無料で提供しており、地域住民の楽しみにもなっている。 毎年地域の高校生の福祉授業の一環である、介護実習生を受け入れている。 市主催の「かっぱつ体操教室」に、毎週利用者1名と職員で参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事で交流の機会があつた近所の方が事業所に自分の家になつたミカンを届けてくれたことは、事業所での生活を理解して来てくれたのだと感じた。事業所内で調理し、食事していることを知つてのことだと思う。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの会議開催にてホームの情報提供、報告等を行い、必要な相談や話し合いをし、いただいた意見をサービス向上に繋げている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 中心的家族が参加できる日に合わせて、毎週日曜日に開催しているため、市職員が出席していない場合がある。 会議では行事や利用状況、事業所の取り組み、外部評価の結果などを報告するほか、課題について意見交換を行なっている。 委員の意見を反映して、事業所の出入り口を1ヶ所から2ヶ所に増やしたり、12月のクリスマス会の名前を「お正月を迎える会」に変更し、餅つきを加えた。	運営推進会議に市職員もしくは地域包括支援センター職員が必ず出席することができるよう、平日開催も検討することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特別な事例についての対応など、事業所だけでは解決できない問題がある時は随時相談している。運営推進会議に参加していただき情報や意見をいただいている。	管理者は市担当者が運営推進会議に出席した際や、要介護更新申請などで市担当者を訪問した際に運営状況を報告したり、年金が少なく支払いが大変との家族等の相談をすると、即回答をしてもらえるなど、何でも相談できる関係を築いている。 月1回市の介護相談員が来所して、利用者との話を職員に報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人、ご家族の希望で安全ベルトを使用しているがその方以外は拘束等行っていない。玄関の施錠も行っていない。	年2回から3回身体拘束排除に向けた内部研修を実施しているほか、ユニット会議でも取り上げるなど、職員は身体拘束の具体的な行為や弊害を理解している。 研修に参加できなかった職員には、研修記録や日頃から管理者が指導することで周知している。 現在家族等の強い要望で、退院後の体位が保てない利用者に、安全ベルトを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議、研修での勉強会で話し合いを行っている。スタッフ間の話し合い、コミュニケーションを多くとることで防止に繋がっていると思う。今後、外部の勉強会、研修も取り入れたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に活用できるよう、市などで開催されている研修会に参加し知識を得るようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時をはじめ、その後もその都度必要な説明を行い、意見や要望がある時には解消できるよう努めている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご意見用紙を送付し、意見や要望がある時にはできる限り柔軟に対応するようにしている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明している。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは面会や行事で来所した際のほか、毎月の送付書類の中に記名式のご意見用紙を同封し、意見等を聴くようにしている。 家族から「職員の名前がわかるようにしてほしい」との意見があり、玄関に職員の顔写真と名前を掲示したり、「外気浴を取り入れてほしい」との要望から、職員と一緒に犬の散歩に行くことにした。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間のコミュニケーションを多くとることで意思、提案が伝えやすく、またそれを会議で反映、検討している。	管理者は月1回の職員会議や不定期に行なう全体会議（パート職員を除く）のほか、日頃から話し易い雰囲気づくりをして、職員の意見等を聞くように努めている。 職員からの意見を受けて、仕事の分担と流れをわかるようにしたり、休憩時間を変更している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境についての相談には出来る限りその都度柔軟に対応している。個々の悩みなども言いやすい環境となるよう、普段から聞く耳をもつようにしている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤者は外部研修への参加に機会をもうけ、非常勤者は会議時に必要な情報を得ることができるよう、テーマを決めて研修会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今後、他事業所との交流、見学、研修への参加の機会を増やしたいと思っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では中々本人の本意を聞き出すことが困難なため、声かけ、観察等繰り返し、何気ない会話を繰り返すことで安心して生活することができるよう努めている。また会話中の言葉に注意し外出や物をきっかけに良い関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会話を多くとるように努めている。ご家族の会話で入居者の過去等の情報、それに対する思い等を聞くことで、良い関係を作る一歩として努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報、コミュニケーション、観察で仕入れたものをスタッフ間で話し合い、それを本人、家族の意見や、他のサービスも含め検討する。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全ての方とは言えないが、その人の力量に合わせ、皆が生活を送る中の一部となっていられるような環境作りをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない支援、役割があるので、負担にならない程度に必要な時は相談するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問しやすい雰囲気や環境作りに努めている。希望がある時、又あると思われる時にはその場所に出かけることができるよう支援する。	入居時の聴き取りや利用者との日々の会話から、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるように配慮している。 馴染みの店での買い物や自宅への外出、外泊、墓参りなどに、家族等の協力を得ながら支援し、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を見極め落ち着いて過ごすことができるよう配慮している。その人により日々変化する感情をよく観察してフォローするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も何かの相談事がある時はできる限り対応する。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	共に暮らす中で見えてくる課題や希望を把握、職員間で共有し、より良いと思われる支援となるよう努めている。	職員は入居時の聴き取りやアセスメントシートのほか、連絡ノートや利用者との日々の関わりの中で、希望や思いを把握し、個人日誌やユニット会議で共有している。 意思疎通の困難な利用者の場合は、家族等に聴いたり、お腹を押さえたら「暑い」ということであったり、お盆を移動させたら「ここに来て欲しい」という合図であるなど、日頃からの経験で、表情や仕草から思いを読み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族、担当ケアマネより必要な情報をいただき把握している。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はその人の状態や状況を日々観察し、日誌や連絡ノート、会議にて情報を収集している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で得た情報や課題、家族からの希望や要望等を会議の場での話し合い、ケアプランに繋げている。	介護計画は利用者の意向や家族等からの要望、医師看護師、管理者、計画作成担当者、職員の意見などを取り入れて作成するとともに、家族等には面会時に内容の確認を得ている。 6ヶ月毎にモニタリングを実施し、短期目標は6ヶ月、長期計画は1年として見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、医師や看護師に相談しながら、その都度現状に即した介護計画に見直し、家族等の確認を得ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子や介助内容等を記録し、連絡ノートや申し送りで情報を共有、支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望や希望に対し出来る限り柔軟に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人に合わせた楽しみごとの支援をする際や、安全な生活を送っていただくため、それに地域資源が必要な場合は調べ活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人、家族の希望で決めている。なじみのかかりつけ医にかかっている人、ホームでの往診にかかる人、必要に応じて他科受診する人様々である。	契約時に利用者や家族等に、希望するかかりつけ医への受診が可能な事を説明している。 かかりつけ医への受診は、利用者の状況をメモで渡して家族等の付き添いを基本とし、家族等が付き添えない場合には、職員が付き添って受診結果を電話や来所時に家族等に報告するとともに、申し送りノートや連絡ノート、個人記録に記載して共有している。 月1回協力医療機関の医師による訪問診療を支援し、利用者も職員も何でも相談できる信頼関係が築かれている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気づいた入居者の変化や医療に関する疑問などをホームの看護師に相談し、指示通り適切に対応するようにしている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は必要な情報交換を行っている。どこまでの治療が必要であり希望するのかを、病院や家族と相談するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や看取りについて書面にて伝えている。実際にその時期を迎えることが予測される場合、またはその時期を迎えた際は、ホームでできることできないことなどを随時相談し、看護師や医療機関と連携をとる。	契約時に重度化した場合や看取りに関する事業所の指針を利用者や家族等に説明している。 職員はマニュアルを基に定期的に内部研修を実施している。 看取りの経験は開設以来十数例あり、現在は1名が看取り状態であるが、突然方向転換をして入院を希望する例もあったため、家族等との状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応のマニュアルがあり、申し送りや会議の場などで対応の統一を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難誘導訓練を実施し、地域の方にも参加していただいた。災害時には通報することにより市や消防署、地域の消防団の協力を得ることができる。	消防署指導のもと、夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。 訓練に民生委員の参加は1度あったが、他の地域住民の参加を得たり、訓練記録に参加者の所属名や次回につながる課題を記載するまでには至っていない。 災害に備えて米や飲料水、食料品、懐中電灯、おむつ類、毛布などを一覧表を作成して備蓄している。	運営推進会議などで、訓練に地域住民の参加を呼びかけるとともに、話し合った課題を訓練の記録に記載し、次回につなげることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格や過去の歴史を大切に して、その人と向き合うようにして いる。喜怒哀楽を自然に出してもら えたり言葉にできない「言葉」をす くい取れたら良いな…と思う。	処遇研修を実施し、職員は利用者の人格の尊重 について確認している。 個人情報の取り扱いについては、契約時に利用 者家族等から書面にて同意を得ている。 個人情報に関する書類は、鍵のかかる書棚に保 管しているほか、家族等の要望を受けて、利用者 の通帳等の管理は金庫を使用し、取り扱いに留意 している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも先に職員がしてしまうのでは なく、時間の許す限り待ってみる、 相談しながら一緒にやってみるなど 必要な支援を行うようにしている。 たとえ小さなことでも、日常生活行 為の中でその人の「できる事探し」 をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など大まかな時間帯は決 まっているが基本的には本人の自由 である。本人のペースに合わせ、必 要な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方にはその日着る洋服を選ん でいただくようにしている。毎日の 整容は個々では難しい方でも見た目 良く居ていただけるよう支援してい る。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	得意料理を聞きながら野菜を刻んだり、切り方を教えていただいたり、一緒に味見や盛り付けを行う。	宅配業者からカロリー計算された食材を自家菜園で採れた野菜を取り入れたり、利用者の状態に合わせてきざみやペースト状にしなが、職員が調理している。 毎月15日は「利用者の献立の日」とし、利用者から希望を聴いて好きな献立を提供している。 利用者は野菜の皮むきやテーブル拭き、盛り付け、食器洗いなど、能力に応じて担っている。 正月や誕生会などには行事食を提供し、職員は食べこぼしや嚥下に注意しながら、利用者と同じテーブルで食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成するメニューを取り入れ、摂取量を記録している。食事が進まない方、嚥下困難な方、一部介助が必要な方…それぞれ個人に合わせて必要な支援をしている。	/	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけを行い必要な支援をしている。昼食後のうがいには風邪予防のためお茶を使用している。必要に応じ介助を行い、希望により専門家による口腔ケアを受けていただいている。	/	
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用は最終手段とし、夜間帯、スタッフの手が無くやむを得ずオムツを使用している方も、日中手のある時はトイレでの排泄を促すようにしている。意思表示が多少でもできる方はなるべくトイレでの排泄ができるよう訴えや様子の変化、経過時間などで誘導するようにしている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知して声かけ誘導し、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。 夜間はおむつでも、日中は布パンツやリハビリパンツで過ごしてもらおうなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔、形状など個々に把握し、下剤だけに頼ることの無いように気をつけている。一時的な便秘なのかどうかを見極め、水分摂取量の調整や身体を動かす機会を作るなどしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大まかな時間帯はあるが、その時間の中で希望のある方はその方に聞いた上で決めるようにしている。入浴拒否がある方もなるべく気持ちよく入っていただけるよう支援している。	入浴は週2回から3回で、午後の時間帯を基本とし、利用者の希望によっては、いつでも入浴ができる体制となっている。 入浴を拒む利用者には、職員を替えたり時間帯を変えるほか、シャワー浴を促すなどで誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全ての生活行為に介助が必要な方には、寝たり起きたりの時間を苦痛なく送ることができるよう、時間を見ながら支援する。本人の意思で動ける方は生活の流れが崩れない程度に自由に過ごすことができるよう支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要時に服薬内容の確認ができるよう事務所にお薬カードのファイルがある。日常的に個人の状態を把握し医師、看護師に報告、必要時指示を仰ぐ。毎食、服薬担当者を決め責任をもって与薬する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人できる事、やりたい事が違うため個人の嗜好や能力を把握しながら支援に繋げている。家事作業などを習慣としてやる方も居るが、できない方も何かに集中できる時間を持つよう支援する。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望のある方は希望に沿い支援し、場合によっては家族にも協力をお願いしている。日常の買い物や散歩などは入居者と一緒でかけるようにしている。全員とは行かないが外食する機会も作っている。	天気のいい日には、職員と一緒に犬の散歩で近隣を一周したり、2匹の猫と庭のベンチで寛いでいる。 年間行事計画を立てて、車いすの利用者も一緒に家族等の協力を得ながら、花見や牛久大仏へのドライブ、市のイベントなどに出かけ、気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の時点で個人の金銭管理については本人、家族と相談して決める。お守り代わりに持っているだけで満足される方もいれば、支払いまで自力でされる方もいる。小遣いとしてホームでお預かりする場合は、出納帳につけ内容を報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を本人の希望で使用する方、本人宛に電話が入った時のフォローなど、それぞれに必要な支援をしている。職員から見て家族の声が必要だと思われる時には、家族に協力をお願いして電話で会話をさせていただくこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースの明るさや室温は職員が適切に管理している。リビングや廊下には思い出の写真や入居者の作品が掲示してあり懐かしそうに眺める方もいる。	共用空間の窓からは、広い芝生の庭園やじゃがいもなどを植えた自家菜園が望め、廊下や共用スペースも広く、車いすの移動もスムーズである。 居間兼食堂には畳のスペースやソファがあり、寛げる空間となっている。 浴室にはエアコンを設置するとともに、転倒防止に手摺や椅子を配置して安全面にも配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング自席で新聞を読む人、気の合う人と話をしながら洗濯物をたたむ人、ソファで日向ぼっこする人、和室で昼寝する人…	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には本人の馴染みの家具や大切な物で飾っていただいている。居室にて過ごす際居室にあるものが混乱のもとや危険なものになる可能性が考えられる場合はあえて撤去することもある。	居室にはカーテンやエアコン、クローゼットが備え付けられている。 管理者は使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明しており、利用者は家族等と相談しながら使い慣れた寝具類や衣装ケース、テレビ、筆筒、家族の写真、位牌などを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手すりがあり室内には段差が無い。トイレなど必要な箇所には目印をつけている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームきらり

作成日 平成28年9月12日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議に市職員が出席していない場合がある。	市職員に毎回必ず出席していただく。	参加者に開催曜日、時間帯の希望をうかがい、結果時間帯変更でまとまった。	達成済
2	13	避難誘導訓練に地域住民の参加を得られていない。 訓練記録に参加者の所属名や次回に繋がる課題が記載されていない。	訓練に地域からの参加が得られている。記録の整備がされている。	訓練に地域からの参加を得られるよう呼びかける。 訓練記録に参加者の所属名や次回に繋がる課題を記載する。	1年後
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。